

顔面神経麻痺

Q：突然顔がゆがんで、飲み物や食べ物が口からこぼれてしまうのですが？

A：顔の片側半分が無表情になったり、感覚がなくなるといった症状だとベル麻痺と呼ばれるような顔面神経麻痺によるものかもしれません。

Q：片側の神経が麻痺しているようなので、顔面麻痺かもしれません。何か良い治療薬はありませんか？

A：最近はウィルスによるものだと考えられており、治療にはウィルスの増殖を抑える抗ウィルス剤や腫れや炎症を抑えるステロイド剤が使用されています。

<症 状>

顔面神経麻痺の症状としては、片方の目や口が思うように動かせなくなったり、顔がゆがんだり、目が乾いたり、口が渇いたり、味がわかりにくくなったりします。多くの場合顔の左右どちらか一方が麻痺し顔の対称性がくずれてしまいます。

<原 因>

顔面神経麻痺が起こる原因としては、色々なものが考えられますが、まだ原因は特定されていません。現在はほとんどが「ウィルス」によるものであると考えられています。

ベル麻痺：顔面神経麻痺の約60～70%を占めるもので以前は原因のわからないものが「ベル麻痺」と呼ばれていましたが、最近「単純ヘルペスウィルス」によって起こると考えられています。単純ヘルペスウィルスは口内炎や唇にできる水疱などの原因になるウィルスで多くの人が乳幼児期に感染し体内にこのウィルスを持っています。通常は体内でおとなしくしていますが体の抵抗力が落ちたりすると「身体的、精神的ストレス」を引き金として再活性化し血管や顔面神経に炎症がおこり、浮腫をおこして神経を圧迫し顔面神経麻痺の原因となります。

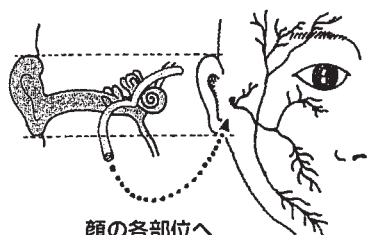
ハント症候群：顔面神経麻痺の10～15%を占め、水疱瘡を起こす「水痘帯状疱疹ウィルス」が原因になるものです。このウィルスは水疱瘡が治ったあとも体内に潜伏し帯状疱疹の原因になることもあります。ハント症候群では、麻痺以外にも難聴、めまい、痛みなどを伴うこともあります。

<発症のメカニズム>

顔面神経は耳の骨の中を通っています。神経繊維の束は周りを骨の細いトンネルで守られて

います。原因となるウィルスは顔面神経が耳の骨の中を通っている付近に潜んでおり、疲れや精神的なストレスにより抵抗力が落ちるとウィルスが活発に活動を始め炎症を起こします。神経が炎症を起こして腫れると、骨との隙間がなくなり、硬い骨によって神経が圧迫されるようになります。また血管の周りも骨に囲まれているため、浮腫を起こした血管は血管自身も圧迫され虚血状態になり、血液やリンパ液などが滲み出し、それがさらなる浮腫を生むという悪循環が繰り返されます。こういった悪循環の繰り返しにより神経が痛めつけられ変性を起こし、脳から顔面への信号が十分伝えられなくなり、顔面の麻痺が起こります。

顔面神経の様子



顔の各部位へ

顔面神経は、耳の骨の中（赤い部分）を通っており、一方は脳の中へ、もう一方は末梢（顔の表情をつくる表情筋）につながっている。神経や血管が圧迫されると、顔の筋肉への経路が閉ざされ、顔面に麻痺が生じる。

正常



神経は束になって、骨の細かいトンネルの中を通っている。

炎症を起こした場合



神経が炎症を起こして腫れると、神経と骨の透き間がなくなり、骨に圧迫される。



神経の周りには、神経に栄養を運ぶ血管がめぐらされているが、神経が腫れると、骨に血管も圧迫される。

文献2)より引用

<治療>

現在、治療の中心は薬物療法で、炎症や腫れを抑えるステロイド薬やウィルスの増殖を抑える抗ウィルス薬が投与されます。ステロイド薬と抗ウィルス薬を初期に服用すれば、通常、神経の圧迫は短期間で治ります。薬を服用する期間は、平均ステロイド薬が10～14日、抗ウィルス薬が5～7日程度です。薬剤の服用は短期間なので副作用の心配はほとんどありません。現在、初期からのアシクロビル投与についてコンセンサスは得られつつありますが、単純ヘルペス感染によるものであるとの確定はされていません。神経の腫れが治まってきたら、ビタミンB12や代謝改善薬を服用することもあります。

また、麻痺のある間は、まばたきがしにくいので、目にゴミが入りやすく、涙も出にくいいため目が乾燥しやすくなります。そのため結膜炎や角膜炎を起こしやすくなるので、眼帯や眼鏡でほこりを防いだり、保湿作用のある点眼薬を使用して目の乾燥を防ぐ工夫も必要となります。

顔面神経麻痺はほとんどの場合、数週間で治りますが重症の場合は数ヶ月以上かかったり、後遺症がのこることもあります。後遺症がある場合には、顔面マッサージなどのリハビリテーションを行います。リハビリテーションを開始する時期や方法を誤ると症状を悪化させることもあるので必ず医師の指導を受けてください。

その他の治療法としては星状神経節ブロック（星状神経節に麻酔薬を注射し、血管を拡張させて血液循環の改善をはかる方法）や、理学療法（温湿布で顔の筋肉を温め、筋肉を動かし、

低周波で刺激する方法) などがあります。これらは神経の再生を促す薬物療法と並行して行われることが多い治療法です。

顔面神経麻痺は、性別、年齢にかかわらず発症します。とくに糖尿病、高血圧、高脂血症などのある人は発症しやすく、血液の循環が悪いため神経に栄養が届きにくく、ウィルスが暴れ出すと、神経もダメージを浮けやすく悪化しやすいので注意が必要です。

リハビリテーションの方法

●顔のこわばりをとるリハビリテーション

筋肉のこわばりをとると同時に、顔のいろいろなところが一緒に動いてしまう症状を和らげる。指圧のように押すのではなく、指の腹で、筋肉が動く方向に引っ張ること。

●目の周り

両手で、上下方向へ引き伸ばす。



●頬のストレッチング

片手で目の横を押さえながら、もう一方の手で、下に向かって引き伸ばす。



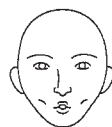
●口元の筋肉

横方向へ引き伸ばす。

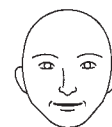


●共同運動を克服するリハビリテーション

力み過ぎると、口の周辺だけでなく、いろいろな筋肉が動いてしまうので、あまり力を入れずに行うのがポイント。



ウー



イー

口を動かすたびに目が動いてしまう後遺症を治す訓練。鏡を見ながら行う。目が閉じないように、「ウー」と口を前に突き出す。「ウー」ができるようになったら「イー」の動きも加えていく。

こんな工夫も



食事のときは、頬に手を当て、押さえるとよい。



口をすすぐときは、唇を指でつまんで押さえるとよい。

文献2)より引用

参考文献

- 1) 青柳優, 山本纈子: 顔面神経麻痺, きょうの健康, vol.169, p119, 2002
- 2) 竹内直信: ここまで治る顔面神経のマヒ, きょうの健康, vol.173, p82, 2002
- 3) 竹内直信: ベル麻痺を治療しましたが、最近、顔がゆがんできました, きょうの健康, vol.183, p 141, 2003
- 4) 古田康: 日本医事新報, No.3962, p167, 2000
- 5) 古田康: Bell 麻痺におけるウィルスの役割, 医学のあゆみ, vol.192, No.8, 2000
- 6) 村田清高: きょうの健康, vol.155, p114, 2001